

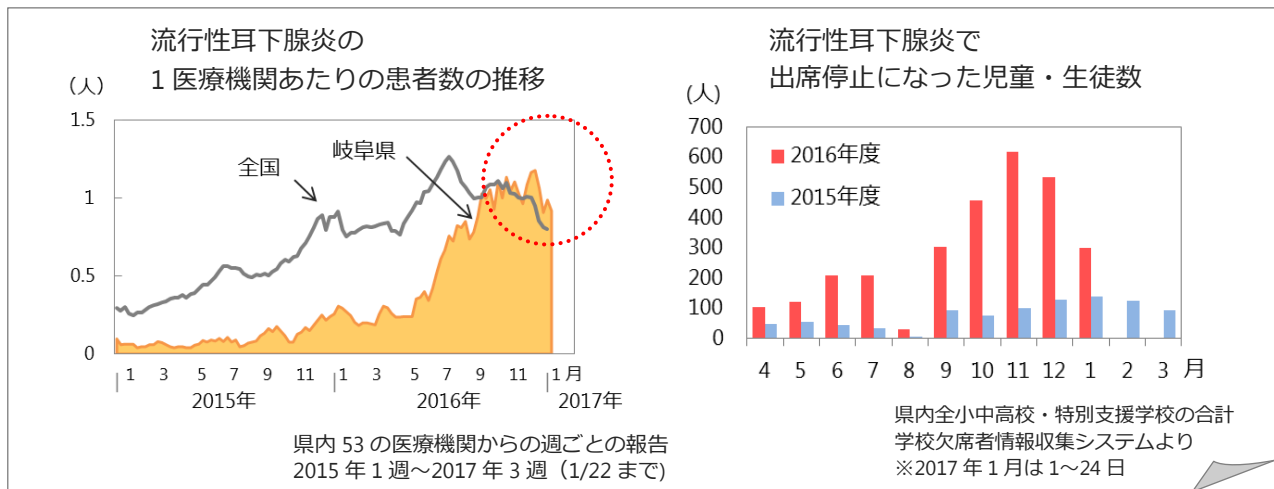
ぎふ感染症かわら版

平成 29 年 1 月 27 日 岐阜県感染症情報センター（岐阜県保健環境研究所）



流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）の流行が続いています！

県内で昨年から始まった流行性耳下腺炎の流行が、2017 年 1 月現在も続いています。医療機関からの報告によると、現在、関・可茂・東濃保健所管内で患者が多くなっています。県内の学校で出席停止となった児童・生徒の総数は、1 月に入り減少していますが、今後もしばらくは注意が必要です。



どんな病気？

ムンプスウイルスによる感染症で、**耳の下が腫れて痛む**ことを特徴とします。感染すると2～3週間後に、**発熱**と、両方または片方の**耳下腺（耳の下にあるだ液腺）の腫れと痛み**などの症状があらわれます。



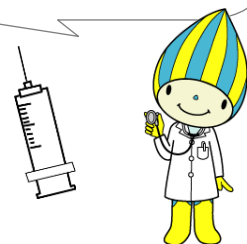
通常は1～2週間で回復しますが、**無菌性髄膜炎**などの合併症を起こすことがあります。**難聴**は、起こる頻度は少ないですが、治りにくく重大な合併症の一つです。

どう感染するの？ 予防方法は？

咳やくしゃみのしぶきによる**飛沫感染**や、患者の唾液で汚れたものを介した**接触感染**により感染します。流行時期には、**手洗い**や**咳エチケット**にも一層心がけましょう。

感染力が強いため、ワクチンで予防するのが効果的です。
任意接種ですが、1歳から接種することができますので、かかりつけ医とよく相談して、接種することも考えてみましょう。

ワクチンは、保育所など集団生活に入る前に接種するのが効果的です。



保育所や幼稚園、高齢者施設など、希望される施設に対して「ぎふ感染症かわら版」のメール配信もおこなっています。くわしくは岐阜県感染症情報センターホームページをご覧ください。

